

「リフレクション 紹介文」

岡和田晃

『エクリップス・フェイズ』日本語版の翻訳監修者・朱鷺田祐介の手になる短篇の第四弾「リフレクション」をお届けする。

朱鷺田祐介はこれまで「SF Prologue Wave」²⁾、「サンダイバーの幻影」、「マーズ・サイクラーの帰還」、「宇宙クジラと火星の砂」……と、宇宙探検家ランディ・シゲルが登場する一連の作品を発表してきた。シリーズ最新作にあたる「リフレクション」では、冒頭からオリジナルのランディの魂からコピーされた分岐体フキクタイの模様が描かれている。ミッションに合わせて交渉能力を強化し、女性の性格を持たせるという『エクリップス・フェイズ』ならではの演出が加えられているわけだ。

さて、彼女を待つ運命は如何に……。

朱鷺田祐介の『エクリップス・フェイズ』小説に通底しているのは、基本ルールブックから各種サプリメント（追加設定資料集）の情報を駆使した、きらびやかで幻惑的なイメージを提示していることだろう。かつてウィリアム・ギブソンは、モダン・アートの

イメージを借用して『ニューロマンサー』を生み出した。各種サイバーパンク・ゲームのデザイナーは、そのイメージから具体的な設定を導き出し、肉付けして実体化させたわけだが、朱鷺田のテキストが一貫して追究を続けているのは、そのように創られたゲームから、いまいちど、再帰的にサイバーパンク小説の新しいスタイルを捉え返す営為にほかならない。

「マーズ・サイクラーの帰還」は雑誌「[RoI&RoII](#)」 Vol. 95に掲載された同名のゲーム・シナリオと連動し、「サンダイバーの幻影」は「宇宙クジラと火星の砂」は「[RoI&RoII](#)」 Vol. 101のゲーム・シナリオ「[太陽クジラ](#)」とゆるやかなつながりを見せている。もちろん本作は、「[RoI&RoII](#)」 Vol. 103に掲載予定のゲーム・シナリオと、背景の多くに意図して共通要素が盛り込まれている。このように、小説とゲームという表現形式の違いを活かした相互作用を可能にしているのも、『エクリプス・フェイズ』というSF作品の醍醐味だろう。

朱鷺田祐介は日本を代表するゲームデザイナー／ライターの一人。サイバーパンクとファンタジーを融合させた『シャドウラン』第4版や20th Anniversary Editionの翻訳

監修でも知られている。同作のゲーム・リプレイ『九龍の天使たち』が発売されたばかりだ。また、ホラー小説誌「ナイトランド」5号の特集「サイバーパンク／SFホラー」の解説をつとめた。ここでは『シャドウラン』や『エクリップス・フェイズ』についても積極的に言及されている。